しかはま自然観察会
のらえもん
2026 年度
No. 1
2026. 04. 05
『　人も　自然も　みんな友だち　』

第１回活動　花見とカブトムシの幼虫配布

暖かい日よりの中、たくさんの家族が花見を楽しんでいました。
桜の花は満開で、八重も咲き始めていました。
大島桜の葉を触り、つるつるしており、桜餅にその葉を使う理由を理解しました。
荒川土手に着いてみると、足立の花であるチューリップが模様を描いて咲いていました。
いろいろな花がいっぱいなところを、みんなで散策できる喜びを強く感じました。

１，日　時：２０２６年4月5日（日）１３：００＾１５：００

２，天　気：晴れ　とても暖かい日よりでした

３，場　所：都市農業公園

４，参加者：総数２０

内訳	大人	8
	中学	1
	小学	3
	幼児	3
	スタッフ	5

５，活動の様子

この日から、２０２６年度の、のらえもんの活動がスタートします。そのうえ、新入生や新会員の顔があったり、OB が訪ねてくる日でもあります。

新中学１年生は、藤井直諒くんです。

直諒くんは、今までにカイコの飼育記録をまとめたり日本の米について１００ページ以上にわたってまとめたりしてくれました。

中学でも、ぜひ、まとめ学習をすすめてほしいと願っています。

OB は、稲川さんが、娘：千花さんといっしょに来てくれました。千花は、現在豊洲にある IHI の会社に勤務しているということでした。また、昨年の稲刈りに参加してくれた翔大くんは、現在介護職で頑張っているということでした。

それぞれの場で、元気よく頑張っている様子を耳にすると、私たちの気持ちが明るくなりますね。

〇すごい！山本さん、カブトムシ２匹から１４匹に。

　山本さんは、昨年２匹持っていきました。

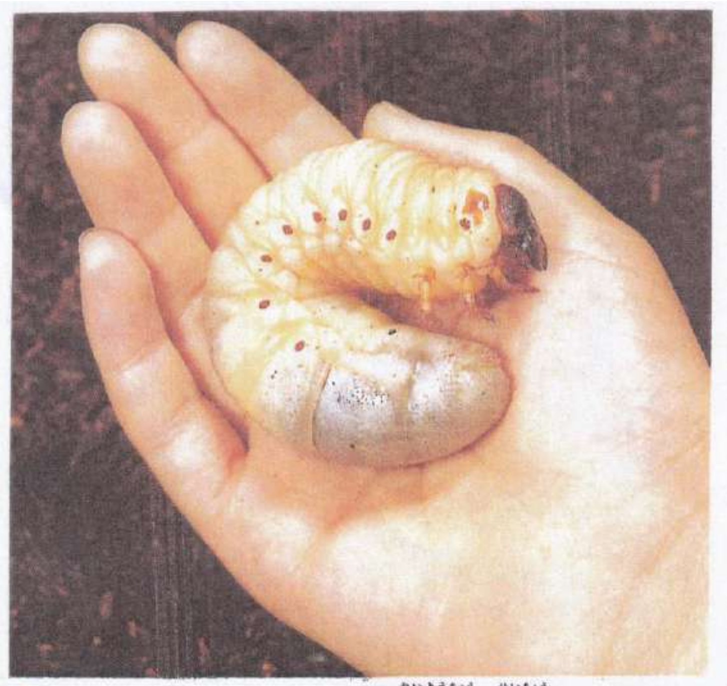
　その２匹が、なんと１４匹の卵を産んだのです。

　バッチリ、オスとメスだったのです。

　山本さんは、新しいオス・メスを探して、また育てるということです。

　でも、オス・メスの見分けはむつかしいです。

　のらえもんからは、２１匹の丸々と太ったカブトムシの幼虫を提供しました。



手のひらにのせたカブトムシの3令幼虫。成長した3令幼虫は、カブトムシの一生で、いちばん体重が重いときです。

　この幼虫は、里山の落ち葉を積み上げてある場所で探しました。

　落ち葉が、黒く腐りはじめた湿ったところに少しずついました。

　以前は、竹チップを積んだところに、掘れば次から次へと見つかりました。その竹チップは、今はありません。竹チップを作るときの機械の音がうるさいという苦情を受け、中止したのです。そのため、その里山では、整理した竹が山積みされたままです。竹は、なかなかくちてはくれません。竹チップにすると、体積が減り土に戻るのも早いのですが。

メスの幼虫の体内に、黄白色にすけてみえる卵。カブトムシの卵の成長は、幼虫のうちから準備されています。

　カブトムシが育つには、葉を落とす木々が必要です。クヌギやコナラの育つ里山は、カブトムシの幼虫は大好きです。

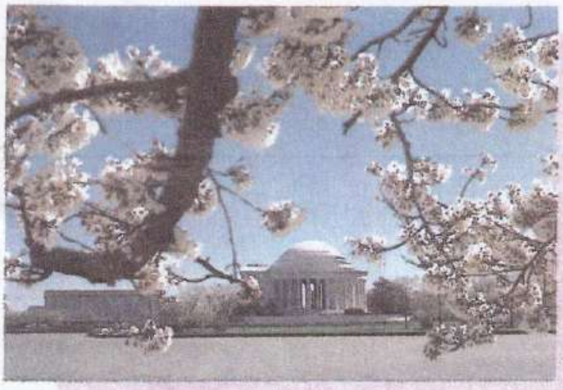
　大きく成長したカブトムシは、飛び回って、今度はクヌギやコナラの樹液を食べます。もう一方で、結婚相手を見つけます。

　カブトムシの幼虫がクヌギやコナラの葉を食べたあとには、ひまわりの種ぐらいの黒いうんちをします。そのうんちは、今度は里山を育てる力になるのです。

〇桜は、国と国とを結びつける友好の架け橋

＊アメリカとの友好

明治４５年（１９１２）、当時の東京市長：尾崎行雄が日米友好の証として１２品種３０００本の桜苗を、アメリカの首都ワシントンに贈りました。この時使われた桜が「荒川の五色桜」です。この桜を市内のポトマック公園に植栽しました。同公演は世界敵な桜の名所になっています。



五色桜の苗木が贈られ、今や世界的な桜の名所となったワシントンのポトマックの桜。毎年盛大に桜まつりが行われる。

＊中国との友好

１９８８年、三重県出身の元日本兵が日中友好を願い、太湖の湖畔に苗木を植えたのがきっかけ。その遺志を継ぎ、活動を続けているのは新発田豊さん。

中国の江蘇省無錫市で見頃を迎えた桜。多くの花見客が訪れていた＝26日

戦後80年 友好の願い咲いた 中国・無錫 (南京の近く)

2025年3月26日

中国の江蘇省無錫市で約３万本の桜が見ごろを迎えている。1988年に元日本兵が日中友好を願い、太湖の湖畔に苗木を植えたのがきっかけで、両国の市民が植樹を続けてきた。

26日には金杉憲治・駐中国大使が歴代大使では初めて式典に参加し、植樹した。日中ハイレベル経済対話が６年ぶりに再開したことなど、交流が多方面で再開していることに触れ、「関係者の努力を支えていけるよう努めていく」とあいさつした。

今年は戦後80年。義理の父である元日本兵の遺志を継ぎ、植樹の活動を続ける新発田豊さん(73)は「父は過去の不幸な出来事を二度と起こしてはならないとの思いを桜に託した。市民が協力して向かっていきたい」と話した。（無錫＝小早川遥平）

６，ふり返りの感想

○今日、さくらや花をみたりして、とてもきれいだと思いました。
　さくらも、いろいろなしゅるいがありました。
　赤色のさくらが一番きれいだと、思いました。
　春なのに　めっちゃあつくて　あせだくだ

伊興小４年

○今日、たんけんして思ったことは、おはなみもして虫とりもして、たのしかったです。（ゆうきくん、落ち葉の中から、落ち葉そっくりな色のやもりの子どもを見つけて、みんなに見せてくれました）
　おはなみして　はなの虫とり　たのしいな

栗島小３年

○むしとりで「オレンジのちょうちょ」と「ちゃいろいバッタ」と「テントウムシ」をつかまえました。
　カブトムシは、いきてほしいとおもいました。
　カブトムシ　いきてほしいな　１００さいまで

母

○サクラがきれいでした。
（みつかどねぎ、を見て）花からネギのにおいのすることをしりました。
　ネギがさいていないのに、ネギのにおいがして、すごかったです。
　またこんど、ネギのにおいをかぎたいです。

新田小３年

○桜が満開をむかえていて、とてもきれいでした。
　また、チューリップがきれいでした。
　都市農の　五色桜が　満開だ

新田中１年

○気温も暖かく、ゆっくりと虫やお花をみながら歩いて、とても気持ちがよかったです。子どもたちも、ノビノビしていました。
　チューリップ　色とりどりで　キレイだね　（母）
　花の下　笑い余りて　あたたかい　（父）

年中
父・母

○本日は、都市農で、カブトムシの配布と春の虫と草花の観察をしました。
（山本さんの）幼虫は、２匹から１４匹まで増えたと言われ、おどろきました。
　桜は、大きいものやピンクの小さいのなど、種類があり、きれいでした。
　散り急ぐ　桜に想うは　時の風

HAL 東京３年

○今年はさくらの花の盛りがすぎていました。
　チューリップは、密度・色のバリエーションも、カッコよかったです。
　春の雨　花びら散らし　青葉迎える
　色の嵐　咲きほこれ　春の野原

スタッフ